

USB リベラメンテ導入記(4)

—USB-101 との接続—

1. 始めに

前報(2)と(3)では、USB-201 との接続における USB リベラメンテの効果を調べてきましたが、今回は比較的古い機器を使った場合の USB リベラメンテでどうなるかを調べてみることにしました。

2. USB-101 との接続における試聴方法

試聴ルートは下記のとおりとします。

USB-5→PC→USB-101(48KHz)→CRV-555(48KHz) →DAC-1→

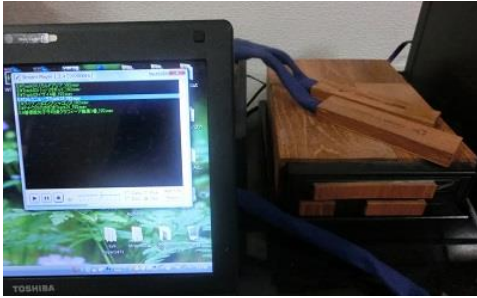
DA-3000(44.1KHz)→MYTEK DIGITAL 192-DSD(DA-3000 からクロック供給)

ここで USB-101、CRV-555 および DA-3000 には ABS-7777 からクロックを入力します。PC はこれもかなり古い SSD ネットブック Dynabook PANB100HNUF の Vista 機とします。つまり、DA-3000 と MYTEK DIGITAL 192-DSD 以外の機器をかなり以前の機器で賄い、ここで USB ケーブルだけを最新のものにしてみようとしたわけです。古い機器ばかりですので、これらの写真を掲載しておきます。



USB リベラメンテ 3.9m は PC→USB-101 間の接続に使用し、USB-W4 を比較対象とします。

音源は音楽用 USB メモリー USB-5 から読み出し、再生ソフトは Stream Player を使用します。その際、USB-101 は 48KHz までしか受け付けませんので、PC のサウンドで送り出しをそのように設定します。音源としては、これまでに蓄積した 192KHz, 24bit WAV を 48KHz, PCM として USB-101 に送り出します。



Stream Player により
USB-5 から再生

さらに音源だけ、最新のものを使ってみようということで、PCをHQPlayer Desktop 3が使えるDynabook T451/57DB Core i7 64bitのWindows7機に替え、旧型の外付けHDDから、前報(2)で紹介した11.2MHz,DSD音源や352.8,WAV音源を読み出して、HQPlayer Desktop 3の設定をDoPに設定し、48KHz,PCMの送り出し条件で聴いてみることもやってみました。



HQPlayer Desktop 3 により
外付け HDD から再生

3. USB-101 との接続における試聴結果

USB-5 から Stream Player で再生した場合、USB-W4 から USB リベラメンテ 3.9m に替えますと、後段の DA-3000→MYTEK DIGITAL 192-DSD からの DSD の SDIF 伝送効果も加わってのことですが、これがあの USB-101 の音かと言うくらい昔のイメージとはほど遠い印象です。USB リベラメンテに比べると USB-W4 は霞がかかり、雑味が残ったような印象です。

HQPlayer Desktop 3 によって外付け HDD から前報(2)で紹介した 11.2MHz,DSD 音源や 352.8KHz,WAV 音源を HQPlayer Desktop 3 のダウンコンバート機能を使って 48KHz,PCM で送り出して再生した場合、USB-W4 から USB リベラメンテ 3.9m に替えますと、先の Stream Player の再生の場合と同様の効果が現れます。

さらに外付け HDD からのケーブルを USB リベラメンテ 1.3m に替えますと、48KHz,PCM にダウンコンバートして USB-101 で再生したとは思えないくらい超ハイレゾ音源の良さが味わえます。

4. まとめ

機器類は旧型機の場合でも、USB ケーブルを USB リベラメンテに替えるだけで、

かなりの効果が認められます。

さらに音源を超ハイレゾにして 48KHz までダウンコンバートした場合でも、USB リベラメンテを使用しますと、元音源の良さを十全にではないにしても、その片鱗を味わうことができました。

このように PC オーディオを旧態以前のままに放置しておいた場合でも、PC から DDC や DAC への USB ケーブルを USB リベラメンテに替え、最新の音源を例えダウンコンバートするにしても、旧型のストレージから USB リベラメンテ経由で読み出せば、かなり満足のいく状況になると言えます。

以上